

清須市 アンケート調査結果まとめ

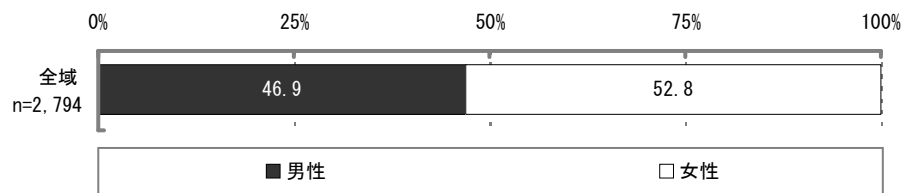
I 調査実施状況

	調査の種類	調査対象者	調査件数	回収件数
1	日常生活圏域ニーズ調査	無作為抽出による65歳以上の高齢者（記名式） ※認定者は、除く	4,000件	2,796件 回収率70%
2	要支援・要介護認定者用調査	要支援・要介護認定者	1,200件	644件 回収率54%
3	事業所用調査	市内のサービス事業者	37件	20件 回収率54%

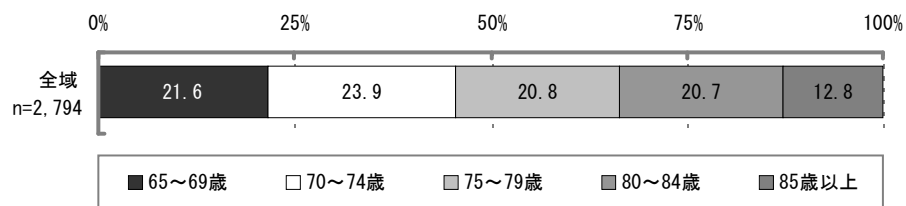
II 日常生活圏域ニーズ調査結果まとめ

1 宛名のご本人について

【 性別 】



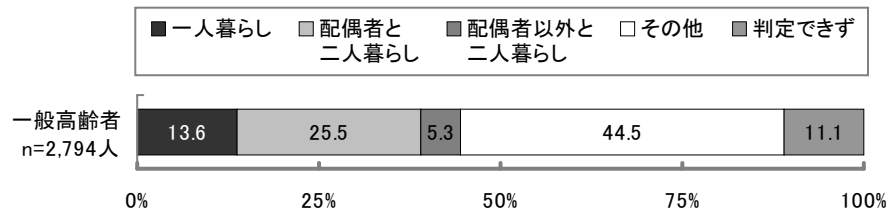
【 年齢階層 】



2 家族構成について

高齢者のいる家族構成について、「一人暮らし」世帯は 13.6%、「二人暮らし（配偶者と二人暮らし）」世帯は 25.5%、「二人暮らし（配偶者以外と二人暮らし）」世帯は 5.3%となっている。

【 高齢者のいる家族構成 】



3 住まいの状況について

住まいについて、全体では「持家」が 84.5%と最も多くなっているが、一人暮らし世帯で「持家」は 66.1%、「民間賃貸住宅」「借間」等が 29.9%と、家族のいる方に比べてひとり暮らしで「持家」の方は少ない状況となっている。

4 暮らしの状況について

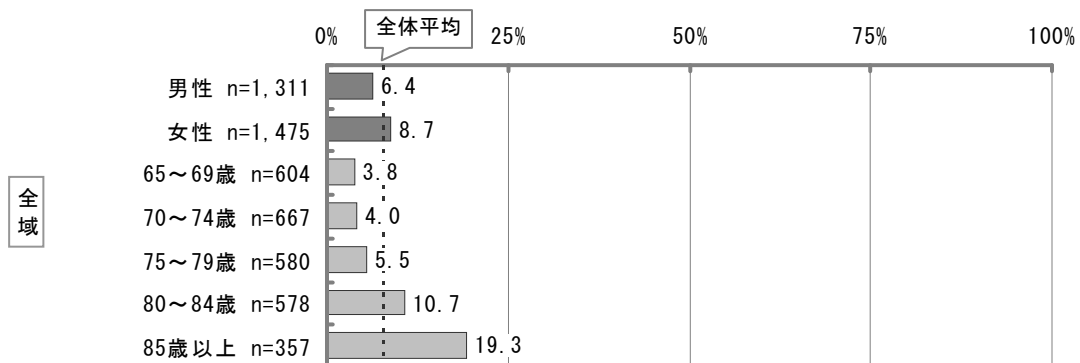
現在の暮らしの状況について、苦しい（「苦しい」＋「やや苦しい」）と感じている家庭は 53.0%、次いでゆとりがある（「ややゆとりがある」＋「ゆとりがある」）と感じている家庭は 42.4%となっている。

5 閉じこもりリスク保有者の状況について

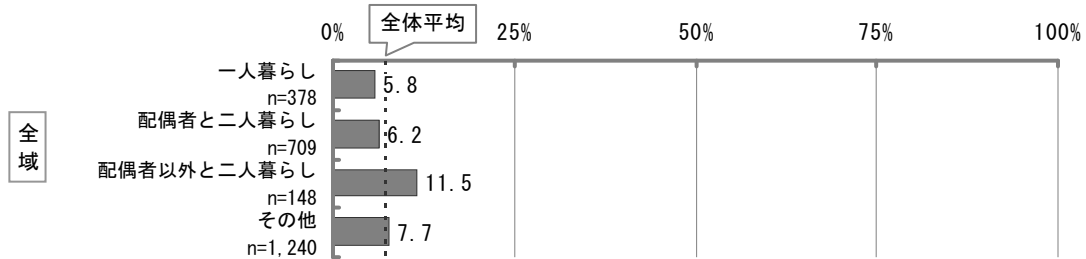
閉じこもりリスク保有者の割合は、全体平均で 7.6%となっており、女性が多く、年齢が高いほど多くなっている。

世帯構成では「配偶者以外と二人暮らし」が多くなっている。

【 閉じこもりリスク保有者の割合（性別・年齢階層別）】



【閉じこもりリスク保有者の割合（世帯構成別）】



6 転倒リスク保有者の状況について

転倒リスク保有者の割合は全体平均で 27.3%となっており、ほとんどの年代で女性が男性を上回っている。

7 低栄養リスク保有者の状況について

低栄養リスク保有者の割合は全体平均で 1.7%となっており、該当者が年齢とともに多くなっている。

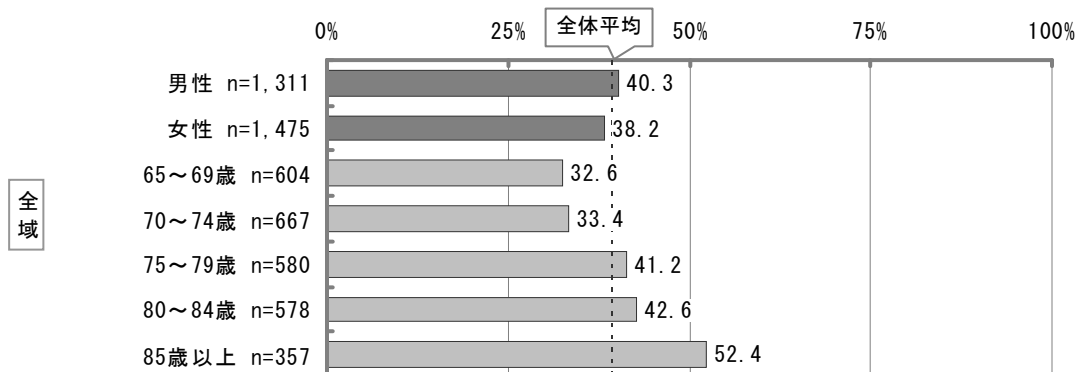
8 口腔機能リスク保有者の状況について

口腔機能リスク保有者の割合は、全体平均で 22.8%となっている。
世帯構成では「配偶者以外と二人暮らし」が 32.4%で最も多くなっている。

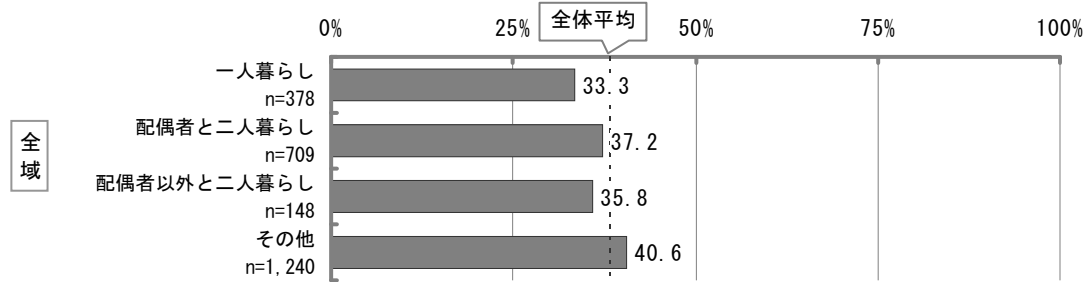
9 物忘れリスク保有者の状況について

物忘れリスク保有者の割合は、全体平均で 39.2%となっており、男性の方が多く、年齢が高いほど多くなっている。

【物忘れリスク保有者の割合（性別・年齢階層別）】



【物忘れリスク保有者の割合（世帯構成別）】



10 認知機能障がい該当者の状況について

認知機能とは、五感を通じて外部から入ってきた情報から、物事や自分の置かれている状況を認識したり、問題解決のために考えたりといった、知的機能のこと。

認知機能障がい該当者の割合は、全体平均で 2.2%となっており、年齢とともに該当者が多くなっている。

11 生活機能（手段的自立度）低下者の割合について

手段的自立度とは、交通機関の利用や電話の応対、買物、食事の支度、家事、洗濯、服薬管理、金銭管理など、活動的な日常生活をおくるための動作の能力のこと。

生活機能（手段的自立度）低下者の割合は、全体平均で 6.6%となっている。

リスク要因別でみると「交通機関での移動困難」では、特に 85 歳以上の女性が多く、「食事の用意困難」ではどの年代も男性が女性を上回っている。

12 生活機能（知的能動性）低下者の割合について

知的能動性とは、役所の書類を書く、新聞や本などの読書、健康情報への関心など、余暇や創作など生活を楽しむ能力のこと。

生活機能（知的能動性）低下者の割合は、全体平均で 31.4%となっており、年齢が高いほど多くなっている。

リスク要因別でみると「本・雑誌を読まない」「年金などの書類が書けない」など、年齢の高い女性が多く男性より多くなっている。

13 生活機能（社会的役割）低下者の割合について

社会的役割とは、主に友人宅への訪問、他人の相談、見舞いなど、地域で社会的な役割をはたす能力のこと。

生活機能（社会的役割）低下者の割合は、全体平均で 47.4%となっている。

リスク要因別でみると、「友人宅の訪問なし」は年齢が高くなるほど多くなっている。

14 日常生活動作（ADL）低下者の割合について

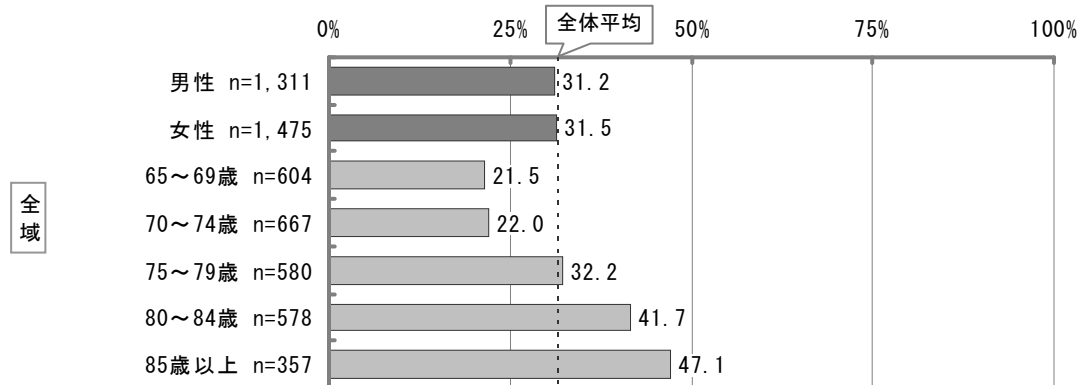
日常生活動作（ADL）低下者の割合は、全体平均で 0.3%となっており、年齢とともに多くなっている。

15 うつリスク保有者の状況について

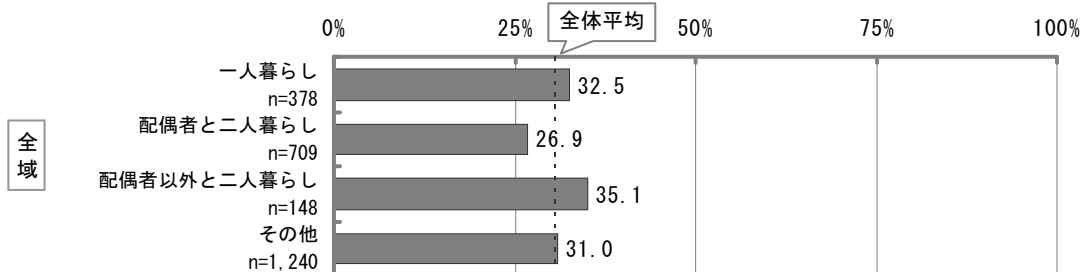
うつリスク保有者の割合は、全体平均で 31.3%となっている。

リスク要因別でみると、85 歳以上で「おっくうに感じる」「無力感あり」「理由のない疲労感」が多くなっている。

【 うつリスク保有者の割合（性別・年齢階層別）】



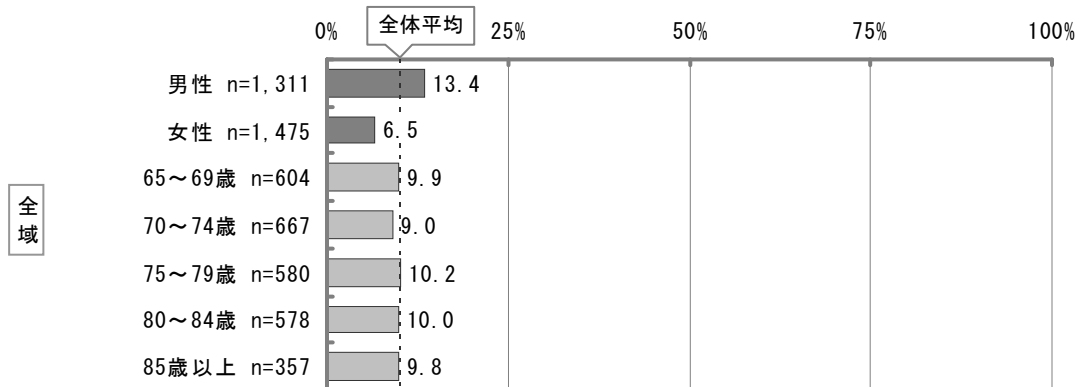
【 うつリスク保有者の割合（世帯構成別）】



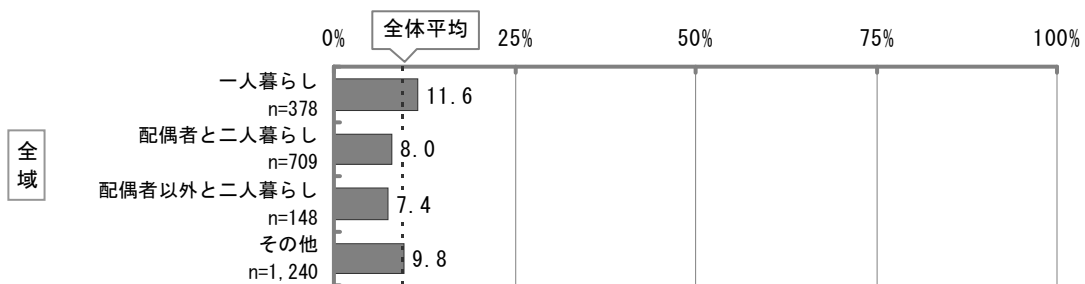
16 不安や心配時の相談状況について

困りごとを相談しない割合は、全体平均で 9.7%となっており、男性が多くなっている。

【 困りごとを相談しない割合（性別・年齢階層別）】



【 困りごとを相談しない割合（世帯構成別）】

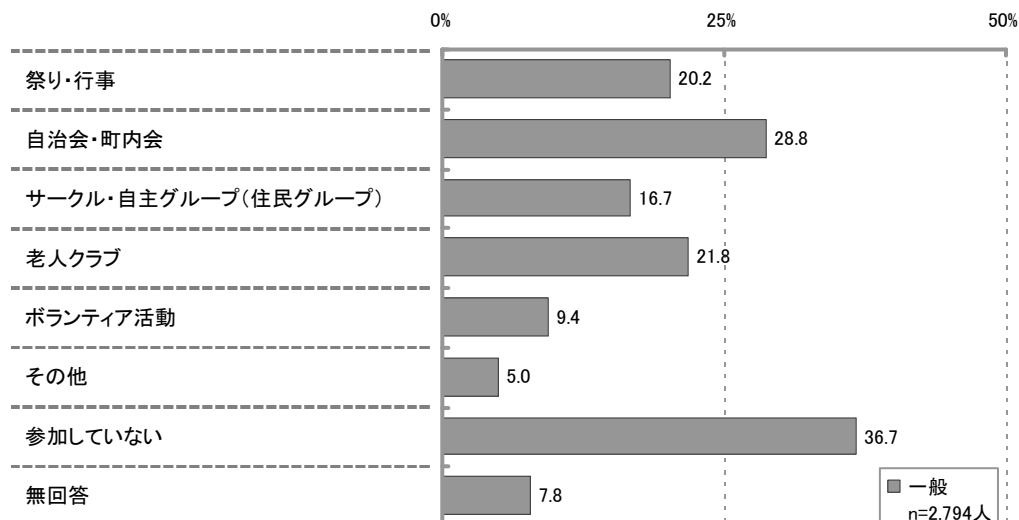


17 地域活動への参加状況について

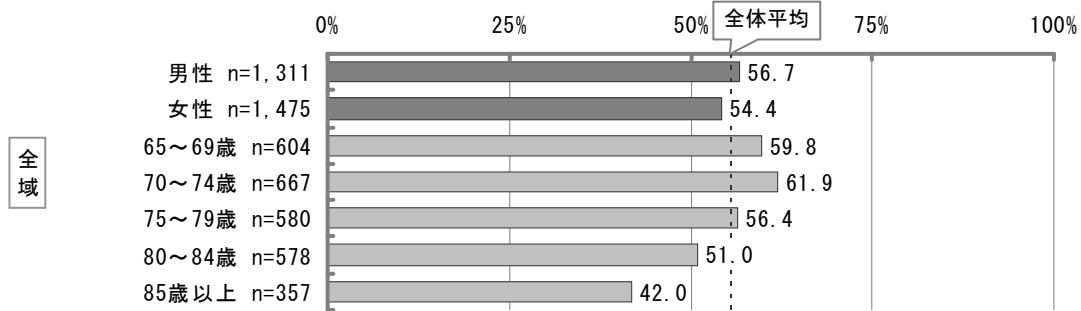
地域活動への参加割合は、全体平均で 55.4%となっており、男性が多く、年齢が高いほど少なくなっている。

地域活動の内容は、「自治会・町内会」が 28.8%、「老人クラブ」が 21.8%、「祭り・行事」が 20.2%となっている。

【 地域活動の内容 】



【 地域活動への参加割合（地区別・性別・年齢階層別）】



18 現病保有状況について

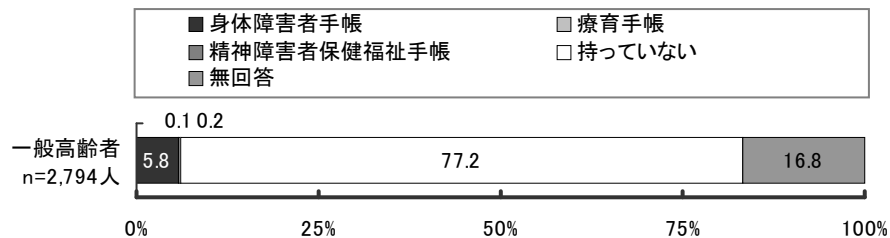
高齢者の現病保有の割合は、全体平均で 82.6%と大変高く、年齢が高いほど多くなっている。

また、病名では「高血圧」が最も多く、「心臓病」「胃腸・肝臓・胆のうの病気」「目の病気」は年齢が高いほど多くなっている。「腎臓・前立腺の病気」は男性が多く、「筋骨格の病気」「目の病気」は女性が多い状況となっている。

19 あなたのご家族や生活状況について

障害者手帳の所持については、持っていると回答した 6.1%のうち、「身体障害者手帳」が 5.8%となっている。

【 障害者手帳の所持について 】

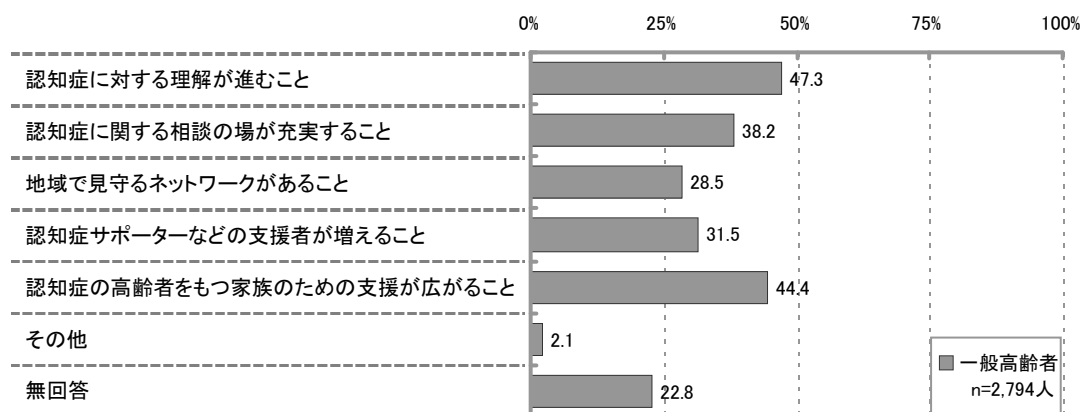


20 健康について

心身への影響に関する問いで、気分が沈む・憂うつの有無については 11.5%、生活のリズムの乱れの有無では 10.8%、ひどく困る・つらいと思うことの有無では 14.4%の方が「はい」と回答している。

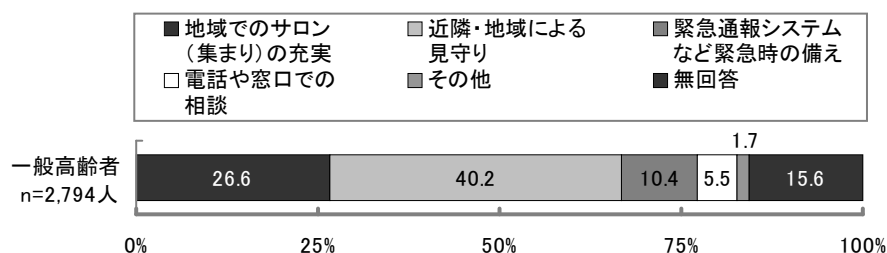
認知症の方が安心して暮らすために必要なことは、「認知症に対する理解が進むこと」が 47.3%、「認知症の高齢者をもつ家族のための支援が広がること」が 44.4%となっている。

【 認知症の方が暮らすために必要なことについて 】



閉じこもりや孤立死などの問題解決に必要なことについては、「近隣・地域による見守り」が 40.2%と、ひとり暮らしの高齢者の存在とその近くにいる地域への周知と見守り体制（「地域でのサロン（集まり）の充実」が 26.6%、「緊急通報システムなど緊急時の備え」が 10.4%）が必要とされている。

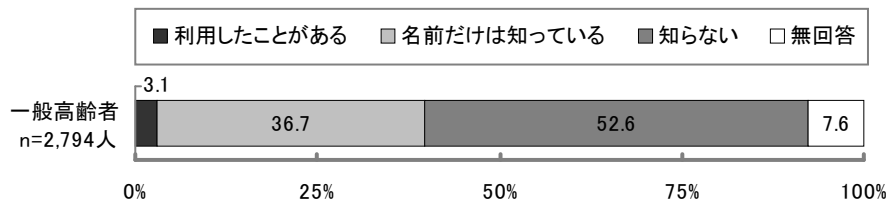
【 閉じこもりや孤独死などの問題についての考え 】



21 地域包括支援センター・健康づくりについて

「地域包括支援センター」の認知度は、半数以上が「知らない」状況となっている。

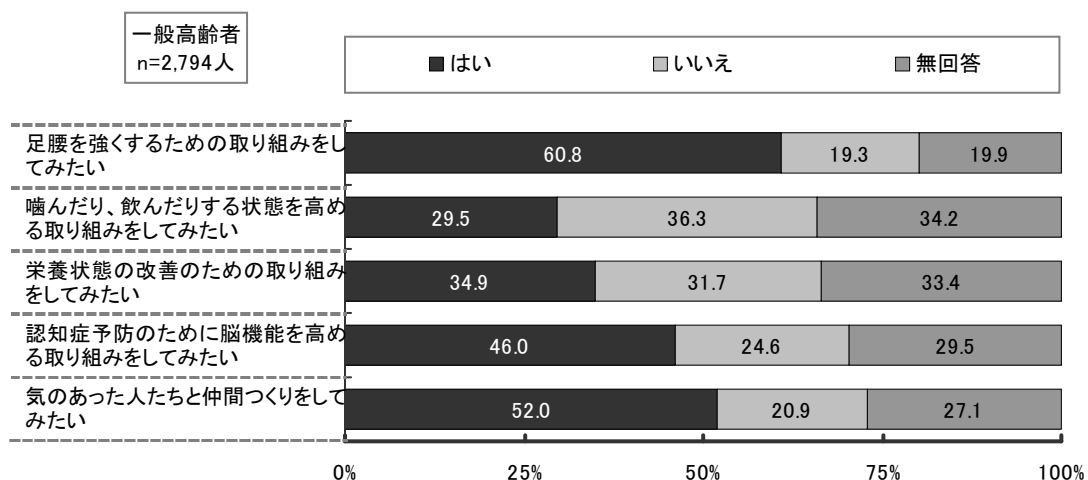
【 地域包括支援センターの認知度 】



健康や介護予防に関する講座などの参加した状況では、「健康づくりに関する講座」が20.5%、「介護予防に関する講座・講演会など」が8.4%となっている。

自分の身体を丈夫にし、張りのある生活を送るための取り組みへの興味の有無について、興味があるものについては「足腰を強くするための取り組みをしてみたい」が60.8%、「気のあった人たちと仲間づくりをしてみたい」が52.0%、「認知症予防のために脳機能を高める取り組みをしてみたい」が46.0%となっている。また、興味が無いものについては、「呑んだり、飲んだりする状態を高める取り組みをしてみたい」が36.3%、「栄養状態の改善のための取り組みをしてみたい」が31.7%となっている。

【 張りのある生活を送るための取り組みへの興味の有無 】



22 サービスの利用について

介護保険のサービスと保険料のバランスについては、「介護サービスは現状維持し、介護保険料が上がることはできる限り抑えるべき」が6割半と多く、現状のサービス内容で介護保険料が抑えられることへの希望が多い状況となっている。

また、今後のサービス希望の上位5位までの順位では、1位「緊急時の通報システムの設置」が35.2%、2位「通院のための交通手段の支援」が29.1%、3位「近所で気軽に集える憩いの場」が23.0%、4位「食事を配達してくれるサービス」14.5%、5位「屋外の掃除、庭の手入れをしてくれるサービス」13.9%と、全体的に高齢者のひとり暮らしや二人暮らしの緊急時などの対応策のサービスや地域で触れ合える場を求めている。

Ⅲ 要介護認定者調査結果まとめ

1 回答記入者（回収数 644 件、回収率 53.7%）

「介護者」が 42.1%、「本人」が 29.7%、「介護者以外の家族」が 14.6%となっている。
「男性」が 32.3%、「女性」が 65.3%で女性が多く、年齢では「85 歳以上」が 37.8%と後期高齢者が多くなっている。

2 本人の状況について

項目	内容
性別	「女性」が65.3%、「男性」が32.3%
年齢	「85歳以上」が37.8%、「80～84歳」が25.2%、「75～79歳」が16.8%
住まいの地区	「清洲地区」が28.9%、「西枇杷島地区」が28.0%、「新川地区」が23.2%、「春日地区」が18.4%
世帯状況（家族構成）	「二世代同居世帯」が28.1%、「二人暮らし世帯（配偶者が65歳以上）」が23.0%、「ひとり暮らし世帯」が18.4%
要介護度 （平成23年6月1日現在）	「要支援2」が16.5%、「要支援1」が14.0%、「要介護3」が13.7%

要支援1・要支援2の方で、今後、状態が悪くならないためにしていることでは、「毎日、新聞を読む等新しい情報を得るようにしている」が 49.5%、「体力が衰えないように栄養バランスに気をつけて食事をとっている」が 46.9%、「毎食後、歯みがきや入れ歯の手入れをしている」が 42.3%となっている。

介護を必要とする状態から経過した期間では、「4年以上」が 41.5%、「1年未満」と「2年以上3年未満」が約 15.0%となっている。

3 介護、保健、福祉サービスについて

要支援・要介護認定者で介護サービスを利用している方は 63.3%（643 人中）となっており、そのうち介護サービス利用後の身体状態では、「変わらない」が 34.9%、「やや良くなった」が 28.7%、「悪くなった」が 10.6%となっている。

要支援・要介護認定者で介護サービスを利用していない方が 30.6%（643 人中）となっており、そのうち介護サービスを利用していない理由では、「今のところ自分で何とかできるから」が 47.2%、「家族による介護で何とかやっていけるから」が 25.9%、「病院に入院しているから」が 16.8%と、介護サービスを利用していない方のうち、家族や自分だけで対応している方が多い状況となっている。

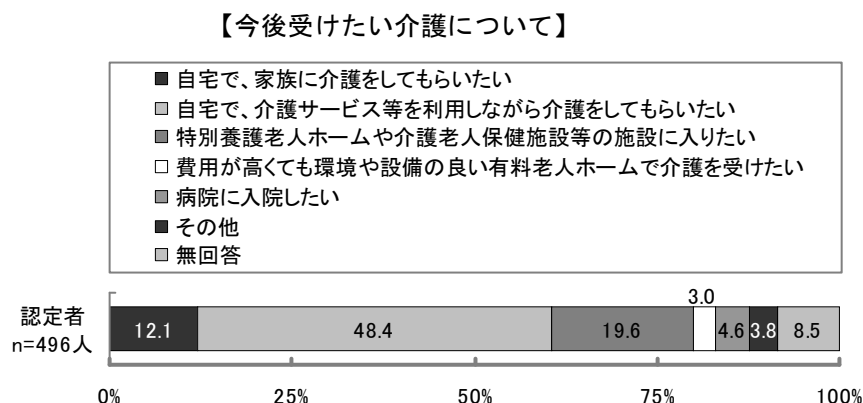
介護保険のサービスと保険料のバランスについては、「介護サービスは現状維持し、介護保険料が上がることはできる限り抑えるべき」が 68.4%で、現状のサービス内容で保険料が抑えられることを希望としている状況となっている。また、今後、介護サービスの利用の考えは、「今のままでよい」が 46.8%、「限度額の範囲内で増やしたい」が 19.1%と、サービスの利用の現状を維持する傾向がみえる。

また、「限度額を超えても増やしたい」（4.0%）「限度額の範囲内で増やしたい」（19.1%）の方のうち、介護サービスの利用を増やしたい理由では、「介護者の負担を軽減したいから」が46.3%、「現在の生活に不自由を感じるから」が24.8%と介護者の負担や生活への負担の軽減を期待している。

今後、介護サービスの利用を減らしたい（19.1%）の方のうち、その理由では、「介護サービス利用料の負担が大きいから」が50.0%、「家族で介護できるから」「期待したほど質的にも、量的にも介護サービスが得られないから」が25.0%と利用負担が大きな理由になっている。

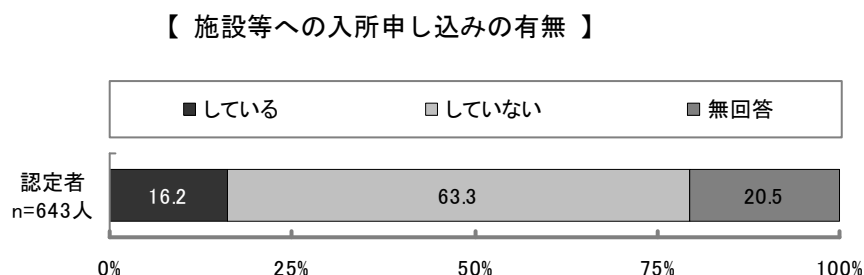
また、今後受きたい介護サービスについて、「自宅で、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が48.4%、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設に入りたい」が19.6%、「自宅で、家族に介護をしてもらいたい」が12.1%と自宅で何らかの形で介護を希望している方は約6割いる状況となっている。

「地域包括支援センター」の認知度は、「知らない」が31.4%、「利用したことがある」が28.1%、「名前だけは知っている」が26.1%と実際に利用したことのある方は少ない状況となっている。



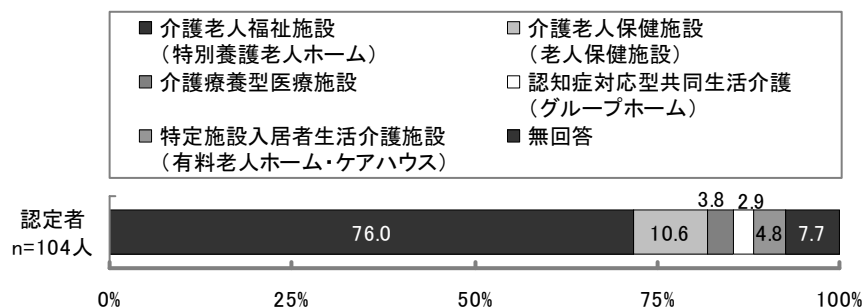
4 施設等の入所申込み状況について

全域で施設等への入所申し込みをしている方が16.2%となっている。



申し込みをしている方のうち、入所申込み施設については、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）」が76.0%、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が10.6%となっている。

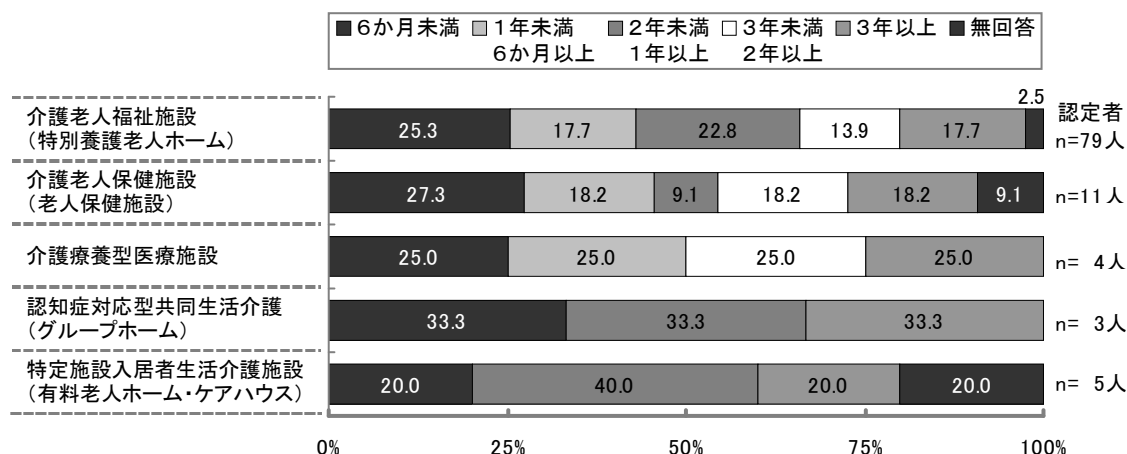
【 入所申込み施設について 】



申込み経過期間では、「6か月未満」の割合順にみると、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が33.3%、「介護老人保健施設（老人保健施設）」が27.3%となっている。

「3年以上」の割合順にみると、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」が33.3%、「介護療養型医療施設」が25.0%となっている。

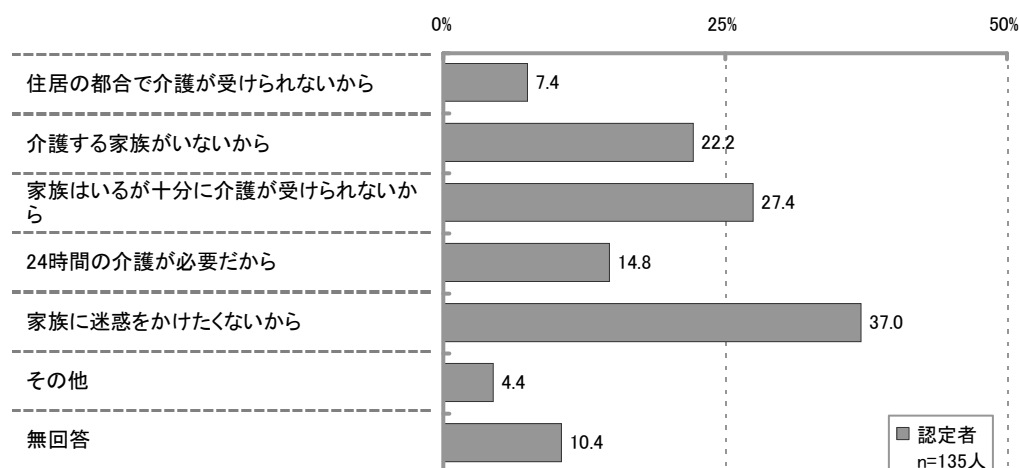
【 申込み経過期間 】



※ 「介護療養型医療施設：2年未満1年以上」「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）：1年未満6か月以上」「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）：3年未満2年以上」「特定施設入居者生活介護施設（有料老人ホーム・ケアハウス）：1年未満6か月以上」「特定施設入居者生活介護施設（有料老人ホーム・ケアハウス）：3年未満2年以上」は、回答がありませんでした。

施設入所を希望する理由では、「家族に迷惑をかけたくないから」が 37.0%、「家族はいるが十分に介護が受けられないから」が 27.4%、「介護する家族がいないから」が 22.2%となっている。

【 施設入所を希望する理由 】



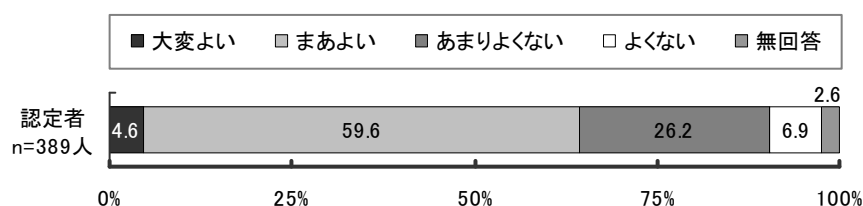
5 主に介護している方について

日常、主に介護している方は、本人から見て「子ども、またはその配偶者」が 34.7%、「本人の配偶者」が 22.2%となっている。そのうち、「女性」が 73.5%、「男性」が 26.0%となっている。

年齢層では「40 歳～64 歳」が 46.3%、「75 歳以上」が 26.7%、「65 歳～74 歳」が 24.7%で、介護者像として多いのは、子どもまたはその配偶者か本人の配偶者で 40 歳～64 歳または 75 歳以上の女性となっている。

主に介護している方の健康状態は、よい(「大変よい」「まあよい」)が 64.2%、よくない(「あまりよくない」「よくない」)が 31.1%となっている。

【 介護者の健康状態 】



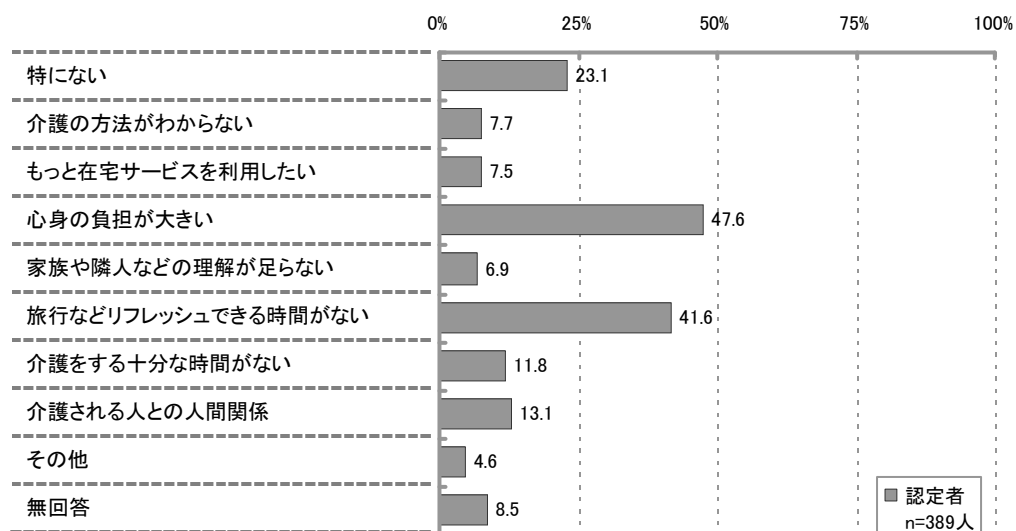
介護者で就労していない方は 62.7%、就労している方は 35.5%と、就労していない方が半数以上となっている。

介護者が、介護サービスを利用したい時間帯で多いのは、「午前（午前8時～午後12時）」と、「午後（午後12時～午後4時）」がそれぞれ半数近く、日中の時間帯の希望が多い状況となっている。

本人が認知症である方が 44.2%となっている。そのうち在宅で介護し続けるために必要なことは、「ショートステイ・介護サービスの充実」が 78.8%、「認知症サポーターによる声かけ」が 22.6%と、介護サービスの利用を望んでいる。

介護する上で困っていることでは、「心身の負担が大きい」が 47.6%、「旅行などリフレッシュできる時間がない」が 41.6%と日ごろの心身への負担が大きいことがわかる。

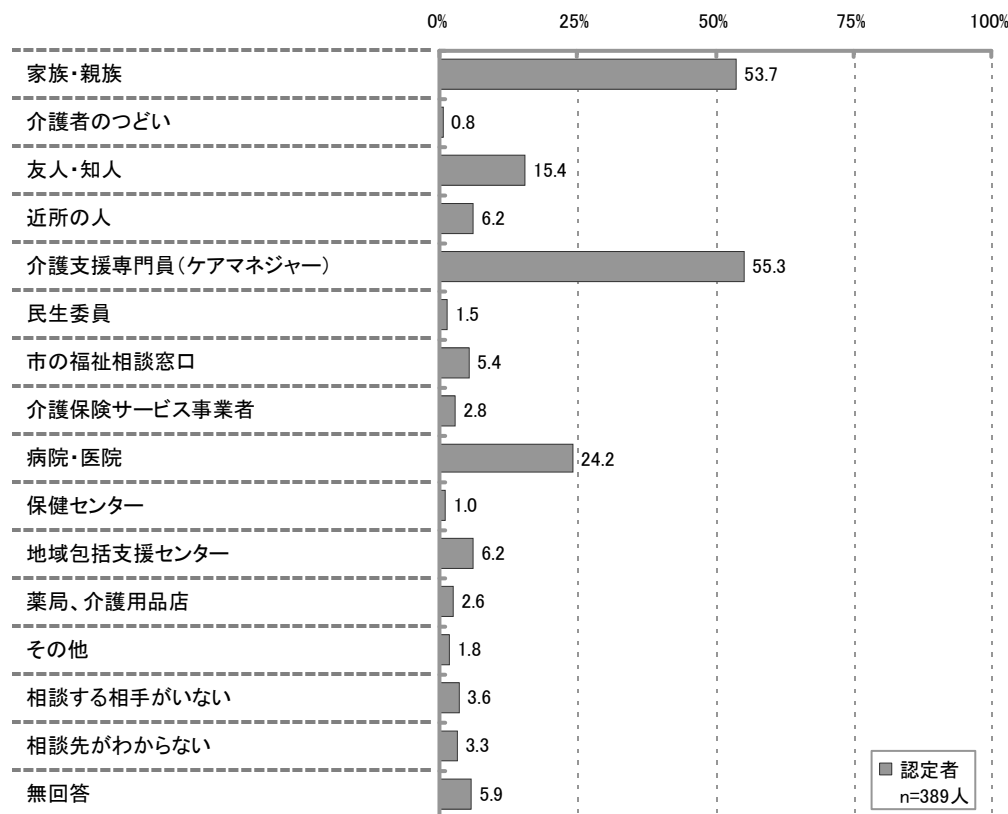
【 介護する上で困っていること 】



また、困った時の相談先では、「介護支援専門員（ケアマネジャー）」が 55.3%、「家族・親族」が 53.7%と多い状況となっている。

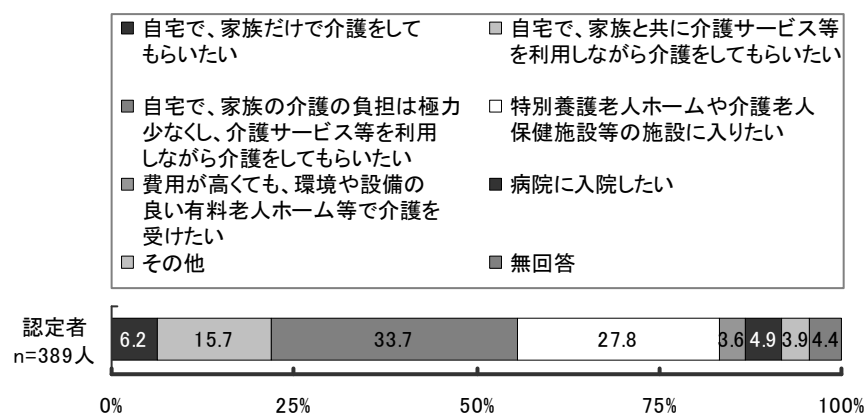
介護サービスを利用することで、利用する前より介護の負担感が以前より身体的に軽くなった、精神的に軽くなったが約半数となっている一方で、利用する以前より経済的に重くなったが 28.2%となっており、身体的・精神的に軽くなる方が多くなると同時に、経済的な負担感が多くなる状況となっている。

【 介護で困ったときに相談するところ 】



介護が必要になったときの希望では、「自宅で、家族の介護の負担は極力少なくし、介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が 33.7%、「特別養護老人ホームや介護老人保健施設等の施設に入りたい」が 27.8%、「自宅で、家族と共に介護サービス等を利用しながら介護をしてもらいたい」が 15.7%となっている。

【 介護が必要になったときの希望 】



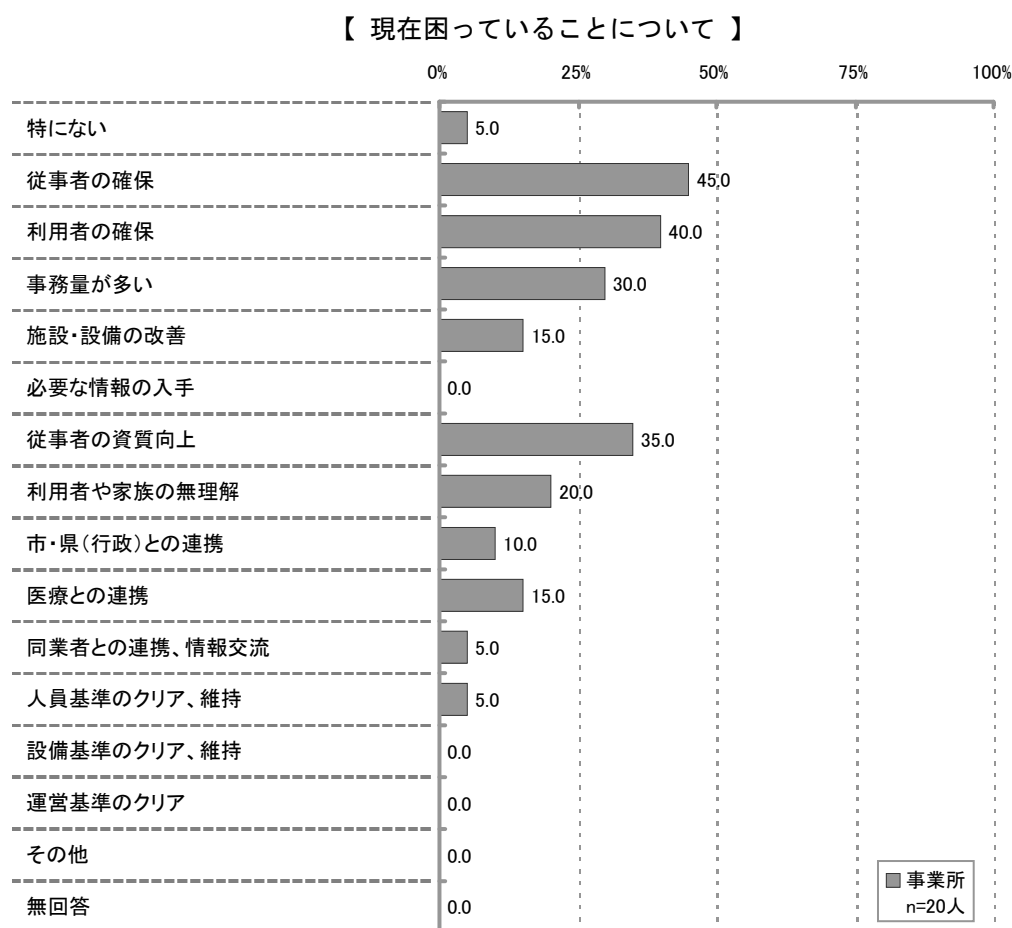
Ⅳ 事業者調査結果まとめ

1 サービス提供状況等について

事業所の設置者では、回答件数 20 事業所中、「株式会社・有限会社」が7件（35.0%）、「社会福祉法人」が5件（25.0%）、「医療法人」が4件（20.0%）となっている。

サービス提供状況等では、「通所介護（デイサービス）」が8件（40.0%）、「訪問介護（ホームヘルパー）」が6件（30.0%）・訪問看護、訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション・短期入所（ショートステイ）・施設等のそれぞれが2件（10.0%）、訪問入浴介護・認知症対応型共同生活介護（グループホーム）・夜間対応型訪問介護がそれぞれ1件（5.0%）となっている。

現在困っていることについて多いのは、「従事者の確保」が9件（45.0%）、「利用者の確保」が8件（40.0%）、「従事者の資質向上」が7件（35.0%）となっている。



■サービスの需給状況および必要だと思っている新しいサービスの提案や意見について（自由記載より）

事業者	内容
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での生活困難者援助のためには、市町村や地域包括支援センター等が主体となった情報収集および事業所との連携、協調が重要であると思います ・介護保健サービス以外の充実、低価格の送迎サービス、病院受診の付き添い ・ＤＳ、ＳＳは増えてきているように思います。近辺に有料ホームが安価で新設されるとありがたい。低所得者の入所できる施設
医療法人	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間対応の訪問看護、訪問介護、利用したい時に利用できるお泊りのサービス。理想は地域密着のように、一体的に利用できる所が増えてゆくと住民にとり、安心して年を重ね介護が必要になってもらえ地域となると思います ・平成24年度の介護報酬改定の動向によりますが、今後は、リハビリに特化した、短時間型通所リハビリ（利用時間1時間以上2時間未満）の提供体制を整備する必要があると思います
特定非営利活動法人（NPO）	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、この地域も小学校区ぐらいのグループホームが必要ではないかと思えます ・10人未満ぐらいのグループホーム又は認知症の方のための専門的なスタッフによるサービス
医療法人	<ul style="list-style-type: none"> ・短期入所は不足していると思う

2 対応が困難な利用者について

利用者状況で多い内容は、「対応困難な利用者がある（50人中2～5人程度）」が9件（45.0%）、「若干対応が困難な利用者がある（50人に1名程度）」「ほとんどいない（50人に1名未満）」がそれぞれ5件（25.0%）となっている。

特に対応が困難な利用者の状況で多いのは、「制度やルールを理解しないで身勝手な行動や言動のある利用者」が15件（75.0%）、「認知症の利用者」「苦情が多い利用者」がそれぞれ7件（35.0%）となっている。また、対応方法として多いのは、「上司に相談」が8件（40.0%）、「同僚に相談」が5件（25.0%）となっている。

■いい結果が得られなかった対応ケースについて（自由記載より）

事業者	内容
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情の多い要支援者に担当ケアマネは2年程度支援、上司も関わってくれていた。ＤＳも、ＤＳも数ヶ所変更されたが、徐々に利用されなくなり、最終的に2者契約で支援終了となった
特定非営利活動法人（NPO）	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの制度や内容をいくら説明（市、事業所）せいでも理解してもらえず、不満が続いたままのケア継続中です ・ターミナルへのサービス対応で、福祉用具の提供ができない（福祉用具事業所の判断）。本人の意志を家族もサービス提供者も尊重して対応をお願いしたいが断られた。環境や周りの支援者を変更したくないが、やむをえず、他の事業所へ、変更した。本人の状態や限られた時間を考えてほしいと思った
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ・突然の暴力行為により、職員が負傷（労災対応） ・利用者様がヘルパーを受け入れず、ケアに行くヘルパーが限定されてしまった
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・介護療養型医療施設では、介護度3以上の方を対象としているが、介護度3には満たない利用者で、医療卒で長期入所を続けている方がいる。医療区分2・3に該当せず。ADLもほぼ自立となる利用者だが、主治医の退院指導に全く従わず家族との面談を行うも家族が引き取る意志もない。施設を探していると話すが見つからないと話すのみ。利用者本人は他の利用者への苦情、食事内容に関する苦情、治療内容に関する苦情も多く対応に困難を要している

3 今後のサービス提供について

今後のサービス提供について、障害者へのサービス提供では、「同じ事業所でできるなら実施したいと考えている」「まだわからない」がそれぞれ8件（40.0%）となっている。また、「実施中または実施予定(具体化している)」の割合順にみると、「夜間対応型訪問介護」「地域支援事業の介護予防事業の受託（一般高齢者）」が2件（10.0%）となっており、「検討中」の割合順にみると、「小規模多機能型居宅介護」が3件（15.0%）、「認知症対応型通所介護」が2件（10.0%）となっている。

「実施しない」の割合順にみると、「小規模多機能型居宅介護」が11件（55.0%）、「認知症対応型通所介護」「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）」「地域密着型特定施設入居者生活介護」「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」がそれぞれ10件（50.0%）となっている。

■地域密着型サービスについての考え（自由記載より）

事業者	内容
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が主導しないと、事業展開は難しいと思います ・夜間対応型や小規模多機能型のサービス事業所が、地域にあると助かります（独居老人や認知症状の利用者が増えると思われるため） ・職員の勤務形態やサービス内容から、入所施設を持つ福祉会などが、中心になって推進するしかないと考えます ・小規模多機能型居宅介護の整備がすむ事を切に希望します ・グループホームを増やしてほしい
特定非営利活動法人（NPO）	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの機能的な中みが良く理解できません。教えていただけると幸いです ・必要なサービスと考えるが、現在の状況の中では困難。今抱えている利用者の必要な要望で動くことならなんとか行える（例えば夜間の発熱や体調の変化）
医療法人	<ul style="list-style-type: none"> ・経営面で成立する事が難しいと耳にする。一体的にその方を介護する事は、本人家族にとっても安心して生活することと考える。経営的になりたてるよう、対応があるといいと思う。医療の支援も一体的にこの地域密着の中に、組み込まれるといいと思う ・地域の特性やニーズも踏まえた整備が必要
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ・都市部地方等の地域における社会形態は様々である為全国一律での地域密着サービスのスタイルには疑問があります ・包括ケアについては是非とも清須市内にもできれば良いと思います
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・療養型に入所する利用者が多くが、「十分な介護する手」があれば在宅での療養が可能な方が多いです。ただ、利用者の家族が抱える事情もそれぞれにあり、身内のみで在宅介護を続けるのには限度があるのも、現実問題となり、療養型から退院する障害となります。要介護者が自宅にいても施設に入所していると同等のサービスが受けられ、要介護者を支える家族が金銭的、身体的、精神的に少し余裕が持てる形で在宅介護できる社会になると良いと感じます

■清須市との連携で期待すること、不十分だと思っていることについて（自由記載より）

事業者	内容
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ・今後ともご指導願いたいと考えております ・現在、進行中の困難ケースについては、清須市の協力を十分に得られているとかんじています。今後も連携体制でいきたいと思っています ・いつも大変お世話になっています。要介護者の非該当の家族に保険や福祉サービス以外の支援が必要になった場合や身寄りのない、非生活保護者や低所得者の入所先のあっせん
特定非営利活動法人（NPO）	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員のレベルアップの為に研修を多く参加させたい。市や県主催の研修情報がもっとあると良い ・各事業所での独自性がでてくるといいと感じる。専門的な向上をつみ上げていきたい
医療法人	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅サービス計画書の特殊ケースのチェックがあると安心してサービスを利用してもらえる。現在、口頭でのやりとりや、実際、書類を整え保険者へは提出している物もあるが、担当者の確認印があると実地指導等スムーズと考える
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等を定期的に行ってほしい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から包括支援センターの方や介護保険担当者の方と面談等を実施し情報提供を密にして、いろんなケースに対して協力いただけると良いと思います

■介護保険制度や介護サービス、清須市の行政対応などについて（自由記載より）

事業者	内容
社会福祉法人	<ul style="list-style-type: none"> ・H24 年4月に予定されている介護保険制度改正について、また詳細について教えていただきたいと思います ・親身になって相談を受けてくれるので、嬉しく思っている。特例の扱いについては、書類を簡素化し、柔軟に対応してほしい ・介護保険の申請後、認定がおりるまでに日数がかかり、困っています ・事務処理が多すぎて訪問する時間が不十分になる。1人のケアマネの担当数が30件を越えてくると残業しないと事務がこなせない。ケアマネ更新が5年毎はとても負担、更新していない人がケアマネ業務に就く場合に更新研修を受けていなくても猶予をもって活動できるようにしてほしい
特定非営利活動法人（NPO）	<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定に時間がかかり過ぎているように思います。素早い対応に努めていただきたい
医療法人	<ul style="list-style-type: none"> ・いついつでも、職員の方が明るく対応され、相談事など、解決する事ができています。ありがとうございます ・他の事業所との連携をはかりたい為、現在におけるサービス内容等（介護）、きめ細かな部分で情報公開できたら、よりわかりやすいと思われますが、いかがでしょうか。具体的に一覧表を作るとか（一般公開）
株式会社・有限会社	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会等を定期的に行ってほしい